

テキストマイニングを用いた「英語村」に対する インターネット上の口コミ分析

釣 井 千 恵

1. はじめに

本研究は、英語村に関するオンラインレビュー（口コミ¹⁾）を分析し、利用客の体験や感想から英語村に対する認識を調査するものである。本研究では、オンラインレビューデータ（文字データ）をテキストマイニング手法で分析する。

英語村とは「非英語圏で疑似英語圏を体感できる大規模な建物であり、一歩足を踏み入れたらまるで英語圏にいるかのような造り」（大場, 2020, p. 89）の英語教育施設のことである。2000年頃から、英語教育における格差解消のために、国外留学よりも低い費用で留学と同様の体験ができる機会を与えようと、韓国各地で次々と作られた（カレイラ松崎, 2013, p. 81）。最盛期には韓国国内で60ほどの英語村があったが（澁谷他, 2014）、多額の維持費用がかかることや、利用者が激減し赤字が拡大していること（大場, 2020; 中村, 2014）などから多くが閉鎖された。一方、日本では、2020年に開催予定だった東京オリンピックに備えて、民間業者による英語村の設立が増えた（大場, 2020）。現在でも民間、自治体、学校が運営す

キーワード：テキストマイニング, 英語村, オンラインレビュー (e-口コミ), 英語教育, 異文化教育

る大小様々な規模の英語村が存在する。閉鎖された英語村もあるが（例、OSAKA ENGLISH VILLAGE（大阪英語村）2021年2月閉鎖²⁾）、現在でも英語村のコンセプトで新たに英語教育施設が設立されている（例、Kitakyushu Global Gateway³⁾）（山下, 2021）。英語村と呼ばれているものの、大規模なものばかりではなく、一地域での「外国人を招いて、子ども達が英語や外国の文化に触れる交流の場」（西川, 2018, p. 131）とする小規模なもの、自治体による寄宿舎スタイルのもの（黒岩, 2020）、大学内に設置された授業外の交流の場としての英語ラウンジのようなもの（例、北爪編, 2010; 渡邊, 2016; Bramley, 2009）、民間業者が主体となった比較的大規模なもの（大場, 2020; Bourke, 2018）などがある。すべて「英語のみの使用」が求められる環境で「(疑似) 外国(文化) 体験」をする「体験型英語学習」施設、またはプログラムであることを特徴としている。

現代の外国語(英語)学習、教育観を調査するプロジェクトの一部として、本研究では日本国内で英語村と一般的に呼ばれる施設のひとつについて投稿された「Google のクチコミ」を分析する。筆者は「英語」「英語学習」「英語教育」に関するエスノグラフィー研究として、オンライン上の談話分析、英語村での観察、そして、英語学習者へのインタビューを行っており、本研究はその一部である。本稿では、英語村の利用者が、英語村や英語村での経験について、何をどのように語っているのかをオンラインレビューデータから概観することを主な目的とする。

2. テキストマイニング

本研究では、日本にある英語村の一施設について書かれたインターネット上のレビューをデータとする。テキストという質的な資料を、統計処理による量的分析を行うテキストマイニング（いとう, 2013）という手法を用いて分析し、その結果をもとに英語村の利用者がどのようなことを期待

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

していたのか、どのような経験をしたのか、それをどのように評価し、描写しているのかを考察する。

テキストマイニングは探索的研究にも、仮説検証的研究にも、仮説生成的研究にも有効であり、ミックス法やトライアングレーションの構成素としての一方法として位置づけられる（いとう，2013）。上述のように、現在、英語村をめぐる、オンライン上の談話分析や、施設での観察、インタビューなどを行なうエスノグラフィーによる探索的研究を進めており、本研究はそれを補完するトライアングレーションの一方法であると考えられる。

英語村を観察するフィールドワークを行う前に、情報収集を兼ねて調査対象とする施設に関するインターネット上の口コミを閲覧していた際、複数の口コミが共通の話題に触れており、議論に値するように思われるものが数件あった。しかし、これはフィールドワークでの観察視点を得ようとする筆者自身の興味関心に基づいたものである。そのような研究者自身の経験や立ち位置、それに基づいた解釈による探索研究を行う前に、データの全体像を概観しておきたいというのが本研究の狙いである。

テキストマイニングは社会調査におけるテキストデータの分析や、商品開発やサービス・品質向上のためのビッグデータの分析など、様々な分野で行われている。イメージ調査を目的としてテキストマイニング手法を用いた研究例としては、海外版旅行ガイドブック（lonely planet）と旅行口コミサイト（Tripadvisor）を情報源として、訪日外国人観光客の日本の観光地に対するイメージを分析したもの（大久保・室町，2014）がある。また、ロンドンにある和食店の Tripadvisor レビュー分析（カレイラ松崎，2019）もオンラインレビューの調査でテキストマイニングを用いた研究の例である。海外資本の和食店と日本資本の和食店に分け、名詞と形容詞の単語頻度解析、特徴語分析、係り受け頻度解析と係り受けの特徴表現の抽

出を行い、それぞれの和食店の特徴と違いを考察している。ほかに、旅行情報サイト（楽天トラベル）の口コミデータ分析から日本のホテルの口コミの特徴を抽出したもの（久保田，2016）もある。本研究でも、英語村に関するオンラインレビューの分析から、英語村に対してどのようなイメージを持っているのか（持ったのか）を調査する。そして、そこから「英語」や「英語学習・教育」に対する認識研究のさらなる方向性に関する示唆が得られるものと考えている。

3. 方法

3.1 データ収集

日本の英語村と呼ばれる施設のうち、比較的長い歴史をもち、規模の大きいものを本研究の調査対象とした。

当該英語村を Google で検索したときに、結果ページに表示される「Google のクチコミ」をすべてコピーし、Word ファイルを作成した。検索を実施したのは 2022 年 7 月 23 日で、全 804 件のレビューがあった。数日前に同様に当該英語村に関するオンラインレビューの予備的な探索を数回行った際も 800 件程度だったので、それほど頻繁に多数のオンラインレビューが追加されている様子はない。「新しい順」に表示される機能を使って並べたところ、最新のものは、データ収集時の 19 時間前に投稿されたもので、最も古いものは 11 年前のものであった。表 1 は、投稿された時期別に投稿数を数え一覧にしたものである。

長い投稿文は「一部を表示する」機能のため、コンピューターのスクリーン上では、最初の数行が表示されるだけで全体が表示されていなかったが、「続きを読む」機能を使い、全文を表示してコピーした。すべての情報をコピーした時点での全文文字数は 53,479 字である。

その後、投稿者のアイコン、名前、投稿時期、Google ロゴ、評価（5 段

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

表1 投稿された時期と投稿数（データ収集日：2022年7月23日）

～1年前	～1か月前	16件	246件
	～3か月前	29件	
	～6か月前	14件	
	～1年前	187件	
～2年前	116件		
～3年前	202件		
～4年前	168件		
～5年前	57件		
～6年前	11件		
～7年前	1件		
～8年前	1件		
～10年前	1件		
～11年前	1件		
合計	804件		

階評価で、数字で点数が示されている）、機能表示（例、「一部を表示」）など、レビュー本文以外の情報を削除した。同時に、レビュー本文内に表示される「旅行のタイプ」「客室」「サービス」「立地」の評価も削除した⁴⁾。また、絵文字や、笑いを示す「(笑)」 「(苦笑)」 「w」「www」も削除した。レビューはほとんどが日本語で書かれており、今回の分析は日本語によるものだけを対象とした。日本語以外で書かれたものは29件あり、すべてにGoogleによる翻訳が併記され、実際のウェブページ上では、日本語での訳が読める。しかし、翻訳の過程には解釈が含まれ、Google翻訳で選定された語(句)が、投稿者の意図を表すのに最もふさわしいものであるとは限らない。従って、今回の分析では英語で書かれたものは削除することにした⁵⁾。Google翻訳ではなく、日本語と英語の両方でレビューを書いているものが1件あった。ほぼ同じ内容を日本語と英語で書いたものであったため、この1件については、英語の方を削除し、日本語でのレビューをデータに含めた。日本語の文章の中で英単語が使われているものがあったが、その場合はそ

のままデータに含めた。その結果、最終的に全 27,487 字（スペースを含まない）のデータとなった。

3.2 テキストマイニング分析の準備

本研究でのテキストマイニングは、フリーソフトである「MeCab (Windows 版)」と「KH Coder」を利用して行った⁶⁾。

上に記した手順で準備したテキストデータを、KH Coder を使って分析する際に、テキストデータの「前処理」として、まず、抽出語リスト（品詞別）を出し、その中から当該英語村を特定できる語を分析の対象から除外した。分析の対象から外した語は、31 語である。当該英語村名や、その名前がついた商品名、所在地、施設内の固有名詞（レストラン名など）を中心に除外した。普通名詞の中には、当該施設の特徴をよく表すと思われるものも含まれていたが、他の英語村に関しても同様の表現が使われる可能性があるものはそのままデータに含めた。削除した語の属性をまとめた表は資料 1 として本稿の最後に記している。また「おすすめ」(10 件)と「オススメ」(11 件)の表記ゆれが見られたが、これらの語が同様の使われ方をしていることを確認し、「おすすめ」に統一した。実際に使用したデータの総抽出語数(使用)は 15,509 (6,173)、異なり語数(使用)は、2,273 (1,858)である。

4. 分析結果

オンラインレビューデータの内容とその特徴を探るために、全体的にどのような語が使われているのかを概観し（頻出語）、その共起ネットワークと、類似性の高いデータのグループ（階層的クラスター）の結果を下に示す。

4.1 頻出語

テキスト全体での出現回数が多い語を順に並べたものが表2である。「英語」「イギリス」「英国」「施設」「雰囲気」「スタッフ」「思う」「建物」「行く」「良い」が上位10個の単語である。「イギリス」と「英国」については、コロケーション統計結果を比べたところ（資料2）、複数の共通する語が各語の前後5語以内で使われており、同じような文脈で使われているようであるため、表記を統一して同じ語として扱うことも考えられた。しかし、本研究は、英語や文化に対する認識についての、詳細かつ深い分析を今後行うための予備的調査という性質もある。「イギリス」や「英国」という用語が分析上、鍵となる単語である可能性もあると考え、そのまま異なる語として扱うことにした。

当該施設に関するオンラインレビューでは、「英語」という単語が最も多く使われている上、本研究は「英語」に対する認識を探究する研究の一部でもあるので、「英語」を使用した原文の一覧を示したい（表3）。「---」の部分は、当該施設を特定することができる語を削除したものである⁷⁾。「英語」という単語に関しては、「英語使用・対応」「英語学習」「英語力・英語能力」についてのレビューが多いことがわかる。

4.2 共起ネットワーク

図1は「データ中でよく一緒に使用される概念を線で結んでネットワークを描」いた（樋口, 2014, p. 11）共起ネットワークである。最も多用されている「英語」に関しては、「スタッフ（と）の英語または日本語による対応」について書かれていることが多いと思われる。「イギリス、または英国の建物や外国の雰囲気や気分」について、そしてそれに対しての行動や感情（「行く」「見る」「楽しむ」「感じる」など）の話題も多いようだ。食事に関する話題とその評価（「スコーン」や「紅茶」が「良い」, 「アフタヌー

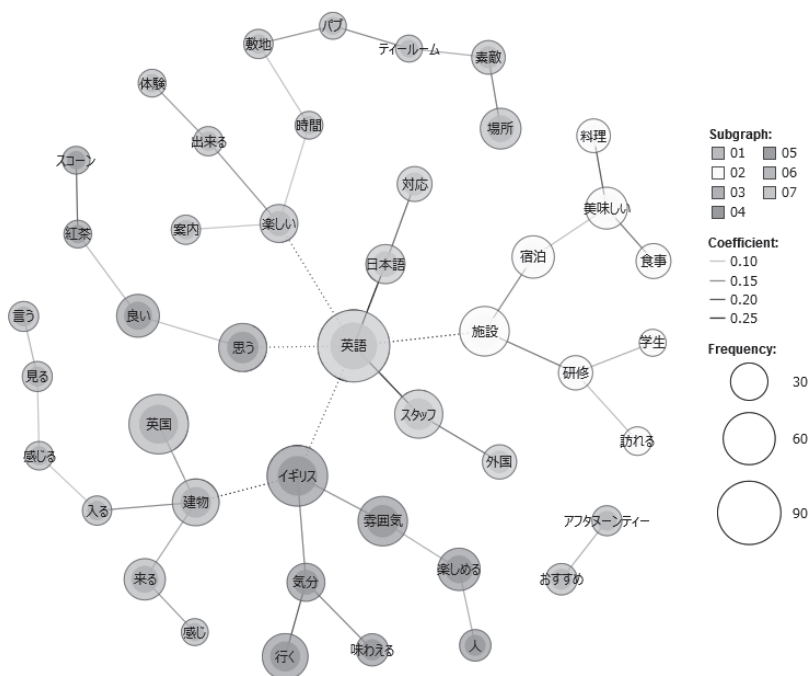
人間文化研究 第18号

表2 頻出150語のリスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
英語	117	見学	15	注意	9
イギリス	82	素晴らしい	15	入れる	9
英国	79	多い	14	泊まる	9
施設	54	本格	14	綺麗	9
雰囲気	54	本当に	14	イベント	8
スタッフ	51	ツアー	13	カフェ	8
思う	51	説明	13	キッシュ	8
建物	48	利用	13	コース	8
行く	46	ティー	12	シャワー	8
良い	40	ハリポッター	12	ショッピング	8
楽しめる	39	レストラン	12	メニュー	8
宿泊	39	異国	12	悪い	8
美味しい	38	語学	12	夏	8
来る	37	出る	12	街	8
場所	36	日帰り	12	学校	8
日本語	33	バスポート	11	季節	8
楽しい	31	楽しむ	11	空間	8
気分	31	寒い	11	広い	8
食事	26	観光	11	残念	8
対応	26	気持ち	11	受付	8
日本	26	高い	11	雪	8
外国	25	作る	11	滞在	8
研修	25	参加	11	勉強	8
素敵	24	散策	11	サービス	7
料理	24	自分	11	バス	7
部屋	23	車	11	ホテル	7
味わえる	22	少し	11	価値	7
おすすめ	21	丁寧	11	家具	7
人	21	土産	11	過ごせる	7
アフタヌーンティー	19	訪問	11	公用	7
見る	19	話しかける	11	今度	7
言う	19	ランチ	10	山	7
最高	19	居る	10	時期	7
世界	19	今回	10	自然	7
案内	18	少ない	10	城	7
行う	18	文化	10	情緒	7
使う	18	話す	10	調度	7
出来る	18	ケーキ	9	頂く	7
入る	18	英会話	9	日本人	7
敷地	18	過ごす	9	表示	7
感じる	17	海外	9	歩く	7
訪れる	17	看板	9	料金	7
スコーン	16	基本	9	ご飯	6
紅茶	16	好き	9	ガイド	6
時間	16	今	9	サンドイッチ	6
体験	16	撮影	9	ビール	6
ティールーム	15	子供	9	対応	6
パブ	15	食べる	9	皆さん	6
学生	15	前	9	外人	6
感じ	15	中	9	近く	6

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

図1 共起ネットワーク



ンティー」が「おすすめ」など)もある。他に、よく共起する語のグループから考えられる話題は「ティールームやパブなどの素敵な敷地」「(宿泊施設の)美味しい料理」や「楽しい時間や体験」などである。

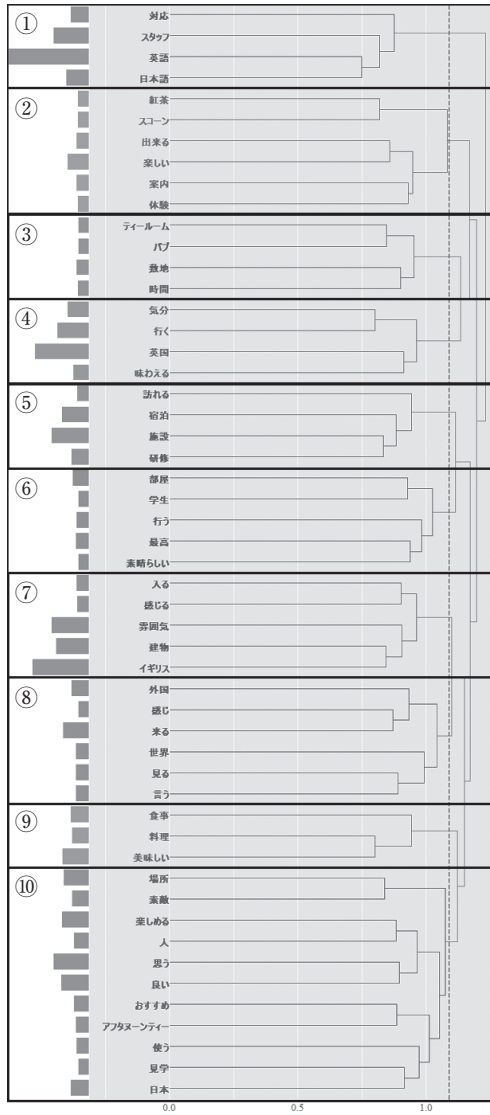
4.3 階層的クラスター分析

「類似性の高い語どうしをグループ化」(末吉, 2019, p. 98)したクラスター分析の結果を図2に示す。クラスター分析の結果からは、データ中の各語がどのように用いられていたのかを想像するためのヒントを得ることができる(樋口, 2014, p. 38)。出現パターンが似ていることを示す図の左側の語のつながりを見ると、大きく10グループに分けられる⁸⁾。

- ①スタッフの使用言語
- ②食事と楽しい経験
- ③敷地内の施設
- ④英国体験
- ⑤研修宿泊施設
- ⑥学生の利用
- ⑦施設内の雰囲気
- ⑧外国・世界体験
- ⑨料理
- ⑩施設に対する感想と評価

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

図2 クラスタ分析の結果



5. 考察

5.1 英語教育（研修）施設としての英語村

本研究の対象となった英語村は、リゾートホテルとしても利用されている。予備的参与観察で訪問した際に出会った利用客（施設内で提供されている授業や、施設のツアーなど、筆者と同じサービスを利用していた）に実際に話を聞いたところ、英語学習施設としてではなく「卒業旅行の一部として（2022年3月のフィールドノートより）」「インスタで写真をみて来るようになった（2022年3月のフィールドノートより）」「他にはないタイプのホテルなので面白いと思って来た（2022年6月のフィールドノートより）」と話してくれた⁹⁾。また、筆者自身がリゾートホテルの宿泊客として参与観察をしたときも（2022年6月）、食事の場面で、まわりの利用客が英語の学習を目的とするのではなく、リゾートホテルの滞在を楽しんでいる様子をメモしている。具体的には、おそらく久々の再会を楽しむ70歳代だと思われる女性二人が、互いの家族や日常生活の話題を日本語で報告しながら会話を楽しむ様子や、夫婦とみられる二人（60歳代のようにみられた）が静かに食事を楽しむ様子などである（2022年6月のフィールドノートより）。

しかし、オンラインレビューでの頻出語の結果から明らかなように、一般的には英語教育施設であるとの認識のほうが強いようである。また、当該英語村のある現地の人々にとっても「ホテル」であるという認識はあまりないようでもある。参与観察中にスタッフの方たちと話す機会があり、ひとりの方が、地元では「公用語が英語」の「英語研修施設」という認識で「塾とか企業の研修とかをやっているところ」であり、地元の人はホテルとは思っていないと話してくれた。そしてそのスタッフの母親が「あそこに行くと英語を使わないといけないから」避けているという話をしてく

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

れた（2022年3月のフィールドノートより）。このように他の英語村と同じように、当該施設も英語教育施設としての英語村と認識されている。このような認識を反映しているのか、分析結果に示したとおり「英語」という語が最もよく使われていた。

英語村に対してどのようなことを期待していたのか、「英語」を使用した原文（一部を表3に記す）から、英語村についての記述や、期待していたことに関する記述を拾うと、次のようなコメントが見られた。

- ・スタッフも英語を話す
- ・スタッフはほとんどネイティブ
- ・全部英語で対応してもらえる・公用語が英語
- ・日本語も話してくれる
- ・楽しく英語が学べる場所
- ・宿泊英語研修に利用されている
- ・英語漬けの生活
- ・日本にいながら、外国（英国）にいるような空間・異国情緒
- ・英国文化を学ぶ（楽しむ・体験する）場所
- ・イギリスの料理も楽しめる
- ・イギリス製品を揃えている土産物店

これらをまとめると、オンラインレビューでは「英語村は、日本にいながら外国（英国）にいるような気分になる空間である。そこでは、イギリス料理を楽しむことができ、イギリスからの輸入品も購入できる。英語が「公用語」であり、「ネイティブ」のスタッフと英語でやり取りをするが、日本語でも対応してもらえる。宿泊英語研修で利用されており、英語漬けの生活を送り、英語や英国文化を学ぶ施設」だと捉えられているようである。

表3 「英語」を使用した原文・コロケーション（一部）

L	C	R
イギリス風の建物が立ち並び、スタッフも	英語	英語を話す。英語関連の校外学習の定着地で、全国から中高生が訪
イギリス風の建物が立ち並び、スタッフも英語を話す。英語	英語	関連の校外学習の定着地で、全国から中高生が訪れる。英語で
取り揃えているかと思っので、がっかりでした。ツアーは	英語	コースをお願しました。質問にも丁寧に回答していただき感謝
ハロッターの世界です。イギリス好きにはたまらない。全部	英語	で対応してもらえると嬉しい。英語の---地めぐりでい
は禁止でした。白人の若い男性スタッフさん(20代前半)に	英語	で [Japanese English] と言われ、仲間の白人と共に笑われ
学生の子どもを連れて遊びに行きたいと思う気持ちと、また	英語	を馬鹿にされたらと思う恐怖心が葛藤してモヤモヤしています。
オンへ行き受付をして入場料200円を払います。スタッフは	英語	で説明してくれます。売店では英国の雑貨やお菓子などがありま
、異国にいる気分になります。レストランのスタッフさんは	英語	でしたが、受付の方は日本語で話してくれました。英語海外をイ
するだけで怒りをはじめなど、本当に便利。数日の研修で	英語	力が上がれば苦勞はしないのだが、どう言ったことが見になって
た。特に発音の練習からスタートするのはなかなかキツイ。	英語	へのモチベーションやマインドなどが変わればいいが、実際の英
のモチベーションやマインドなどが変わればいいが、実際の	英語	の力を磨くにはまず単語やらが必要だろう。学生研修の熱、部
っていたと思う。雰囲気はあるが、雰囲気だけ、かも。な	英語	出来なくても指ハートすればどうにかになりました。やってみて
な体験ができました。日帰りで利用させていただきます。	英語	が苦手な私より英語が話せる人ならもっと楽しめるだろうな
日帰りで利用させていただきました。英語が苦手な私より	英語	が話せる人ならもっと楽しめるだろうなと思っています。-----
ーンティーを楽しみたい。紅茶が美味し。明らか下手な	英語	でもちゃんと英会話をしてくれました。今回はアフタヌーンティー
な。とても素敵な環境で、サービスも充分でしたが、完全	英語	対応を期待していたため、いくらかのスタッフさんから日本語で
思いました。（本館ではなくティールームでの対応でした。	英語	がわからない方も来られると思うので、そのためかとは思いま
い方も来られると思うので、そのためかとは思いますが）	英語	のツアーはとても聞き取りやすく、明るくチャタリングなガイド
なロケーションです。イギリスに行った気持ちはなります。	英語	が得意な方はすごく楽しめると思います。ハリウッドの世界
英国に行った気分が浸れ、ぜひまた行きたいと思えます。	英語	ができない私でもなんとか受付できました。ティニーは量が圧
ある英国。9つの宿舎があり、楽しく	英語	が学べる場所です。後ろには、ハイキングができる場所もありま
を作ったのかと、ちょっと想像できないレベルです。ただの	英語	研修施設と思うことなかれ。ハリウッドの世界を彷彿とさせ
す。ほかの方も書いていますが、日本語は仕方ないにしても	英語	での表記もなく、あまりにも不親切と感じます。入った私が悪い
部屋で座っているだけでもとても楽しいです。基本的には	英語	で話すスタイルですが、日本語でもそれなりに対応してくれます。
もそれなりに対応してくれます。フロントの方などは本当に	英語	しか分らないスタッフさんいます。スタッフさんによって
と迷惑そうな顔をするので、そこは要注意かも……。逆に	英語	で話しかけたら、しれっと日本語で返されたことありました。な
どこに連れて行こうか迷ったら、ここ。500円で敷地内を	英語	で案内してくれました。ハロインの時期に合わせと限定のフ
メ！ ーの中にあるので10月中旬頃でもかなり寒かった。	英語	漬けになるのであればおススメします。10月に宿泊しましたが
のフロントでの対応は、日本語で聞いても帰ってくる言葉は	英語	、お店にはイギリスから輸入したお菓子や雑貨が並びセッス

5.2 英語村での体験

本節では、利用客が英語村でどのような体験をしたのか、そしてどのような体験を英語村のレビューとして特記しているのかを捉えるため、ここでは「体験」という用語が使われている原文を見る。「体験」が使われている全16件のレビューの一部を示したものが表4である。文中の「---」は当該英語村の名前や所在地名、施設内の固有名詞、これらの語がついた商品名を隠すために筆者によって改変された部分を示す。

英語村で体験できるもの（こと）として、最も多く言及されているのが「英国（イギリス・England）」である。「英国」「イギリス」「England」を体験できると書いているものもあれば、「英国（イギリス）文化」を体験できると書いているものもある。体験型英語教育施設なので、学習活動や授業内容そのものに関する話題があってもよさそうなのだが、そのよう

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

表4 「体験」を使用した原文・コロケーション（一部）

	L	C	R
スタッフさんは英語でしたが、受付の方は日本語で話してくれました。	体験	できます	アフタヌーンティー、意外とお嬢いっばいになります
かかるけど、中世イギリス貴族の生活環境の雰囲気を楽しむ、とても楽しく貴重な	体験	できました	日帰り利用させていただきました。英語が苦手な私より英語が話せ
国も 行きたい♡ごんなどころに英国が…だまには、日常を離れて国内で外国を	体験	できるかも、びっくり、	子供に英会話を実践して欲しくて家族で宿泊したのですが
り選べます)が、おすすめです!上の方で記述した…の世界観などを、そのまま	体験	できるのが、このコースとなります	料金は、入園料その他で、大人800円(子供)
…を運営する…	体験	できる場所としてここ…に…	を設立した。留学研修施設とし
てくれるので英語に自信がなくても大丈夫。	体験	するべき、本物を見て触れます。	パプのランチや敷地内の散策もおおすすめです。E
びっくりしました。楽しみながら英語が学べる施設で日本に屋ながら気軽に英国を	体験	できる場所としてはとても良いと思えました。	英国産りの綺麗な建物(宿泊も出奔
格帯は高めですが、日常を離れるには最速かも。	体験	できるエリアです。公用語は英語らしいですが、もちろん日本語も通じます。	子供
てしまいましたが、困った時は日本人のスタッフもいらして安心です。中々良い	体験	が出来ました。料理もとてもお洒落で美味しかったです。	のんびりと外国気分を楽し
必要、単なるホテルに泊まる気分なら行かないほうがよいです。本当に'England'を	体験	したい方には最高、	その名の通り、イギリスの街並みなどが再現された施設でし
アフタヌーンティーもできるものでそれだけでも、	体験	できる	スタッフがうれしい、食事は最高
か気分はあちらが…	体験	出来ます	まるでイギリスと思わせる作りが素晴らしい、普通
…最高イギリスのどこかに旅行へきたと思える場所です。超絶イギリスを	体験	や英語研修が受けられる施設。	チェックイン時点から英語での応対が始まる、どう
は選んで美味しかった。ただ、英国式食品に馴染めなかつた。が、これもまた英国	体験	出来る場所(日本に比べて、イギリスに行った気分)	イギリスに行った気分(本物)!
と感じて外国の方も日本語OKで気分転換にはいいとおも	体験	できました。	素晴らしい!学校で宿泊したのでさすがと誇らし

なレビューはない。学校の研修の一部として英語村のサービスを利用する生徒や学生が、その研修の感想や体験を口コミサイトで書くことはあまり考えられず、このような口コミサイトに訪問後のレビューを書くのは、ほとんどが一般利用者だからかもしれない。一般利用客も授業やセミナーを受けることはできるが、こういった英語学習の要素よりもそれ以外の要素のほうが、大きく期待され、強く印象に残るのだろうか。

自明のことだが、「英語村」は英国ではない。しかし「英国を体験」「イギリスを体験」「England」を体験」「英国文化を体験」といったレビューのように、国や文化そのものが体験できるかのように書いているレビューが複数ある。おそらく国や文化そのものではなく「気分」や「雰囲気」を体験できるということを意味しているのだろう。しかし、国や文化そのものであれ、その気分や雰囲気であれ、何を文化と呼び、体験をしていると感じている文化とはどのようなものなのだろうか。英語村のどのような施設やサービス、雰囲気を「英国文化」と感じているのだろうか。英語村での国や文化の表象の仕方、そして異文化に対する認識との関係から英語教育を考える必要があるが、本研究の主目的から逸れるので、今後の探究的研究の場で議論したい。

5.3 英語村（での体験）についての評価

英語村、または英語村での体験について、利用者はどのような点をどのように評価しているのだろうか。頻出語リストでは、「良い」「楽しめる」「美味しい」「楽しい」「素敵」「味わえる」「おすすめ」「最高」という好意的な語が上位に見られる。これらの語のうち、「良い」「楽しめる」「楽しい」「おすすめ」を取り上げて、何がどのように「良い・楽しめる・楽しい・おすすめ」なのかを見る。表5から表8はそれぞれの語を使用した原文・コロケーションの一部を示したものである。文中の「---」は上と同様に、筆者によって削除された部分を示す。

「良い」

一部「景色が良いかどうかは、なんとも言えません」や「…した方が良かったかもしれませんが」のように良い点を挙げているわけではないレビューもあったが、ほとんどが「良い」と評価した点について言及したものであった。「良い」と評価されたものは、施設の雰囲気、英語が使用できること、滞在時の天気や気候、スタッフの対応や説明、英語習得や学習を目的として提供されている設備や環境や教育、宿泊設備とサービス、提供された飲食物などである。

「楽しめる」「楽しい」

英語村の利用客はどのような点を「楽しめる」と述べているのか、「楽しめる」と「楽しい」という前後の原文を精査したところ（表6は「楽しめる」、表7は「楽しい」の原文の一覧の一部を示している。これまでと同様に一部を削除している）、「全体的に楽しめた」や「久しぶりだけどかなり楽しめた」「日帰りでも楽しめる」といった表現のように、訪問や滞在そのもの、訪問中や滞在中の経験全般について「楽しめる」とコメントしたものも含まれていたが、ほとんどのレビューでは具体的に楽しんだものが記述されていた。「楽

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

しめる」と述べられていたものをまとめると以下のようなものが挙げられる。

- ・ イギリスの雰囲気（「中世イギリス貴族の生活環境の雰囲気」「異国情緒」）
- ・ 建物，建築，調度品
- ・ 景色
- ・ 飲食物や，その提供に使われている食器
- ・ 施設内での体験（散策，トレッキング，買い物，授業，ツアー，イベント）
- ・ 販売されている商品（「イギリスならではのもの」）
- ・ スタッフとの英語での会話
- ・ 英語と日本語の両方（によるサービスの提供）

「おすすめ」

利用者自身の体験から，レビューの読者に対して「おすすめ」できるものとして挙げられているのは，

- ・ 施設（施設から見える景色，敷地内での体験）
- ・ 雰囲気（別世界の気分，イギリスに居る感じ，日本の雰囲気ではなくゆったり過ごせる場所）
- ・ 提供される飲食物
- ・ 提供されるサービス（ツアーや英語を使う環境）
- ・ 販売されている商品（土産物）

である。また，次のような人に対して「おすすめ」だと紹介されている。

- ・ 英語を勉強したい人
- ・ 英語漬けになることを期待している人
- ・ 英会話の実践練習をしたい人
- ・ 好ききの人
- ・ 落ち着いた雰囲気が好きな人
- ・ 子どもの夏休みの訪問先を探している人

以上のように英語村での体験については、ほとんどが楽しく、良いものであったと記述されている。利用客は英語村に対して期待していたものを、実際に体験でき、楽しく良い経験となったと感じ、満足して口コミを記している。繰り返しになるが、楽しく、良いもので、「おすすめ」したいもののほとんどは、施設設備自体やその雰囲気、提供されている飲食物や売られている商品、施設内での体験自体である。施設内での体験には、「(全部) 英語による対応」や「英語での会話」、英語で行われる「ツアー」も含まれる。「英語」とそれに関連する体験も商品として売られており、それを楽しみ、「英語を勉強したい人」や英語学習のために「英語漬けになることを期待している人」に勧めている¹⁰⁾。

表5 「良い」を使用した原文・コロケーション (一部)

	L	C	R
が振り回られていました。@……を壁びューポイントはおおすすめです。レストラン		良い	ですが、お土産品の品揃えがいまいちに感じました。イギリス製の商品をもって取り揃えて
ただただだたと思えます。@金庫として中継のスタッフさんは皆さん大変フレンドリーで		良い	して頂きました。ありがとうございました。@好きな人もいるとは思いますが@語学研修の為
すが、色々楽しめませんか@部屋も明るくて、のんびり過ごせます。@景色が		良い	かどうかは、なんとも言えませんがね。@宿泊には、自販機があります。@洗濯機
を期待すると、少し物足りないかも知れませんが、語学研修の為の施設ですので、そこは		良い	としましょう。@異国情緒を感じやすいため@静かなロケーションです。イギリスにいった!
が並び、海外にいる気分を味わう事ができます。@ぜひ今度は宿泊したいな@天気		良い	初めの一日を気持ちよく過ごしました。今回は車のツーリングで向いました。@……の……
ました。きっかけはインスタなどにアップされた @建物のコラボレーションが物凄		良い	く、インスタ映え とほこういうものだ! という画像を何度も拝見し、私も行った次第
が があるのにいきなり恐ろしいほどなんですか? これも異国文化なんですかね。@		良い	所です。@ハロウィンのイベントが行われていて賑やかでした。紅葉がキレイでした。日帰り
帰って@言葉は英語、お店はイギリスから輸入したお菓子や雑貨が並び@センスの		良い	さを感じた。店員さんは外人さんで英語、表示は@オン表示、レストランでは外人さんは
けでもなくセンターとして訪問、敷地内を散策して@アタスーンティーを頂きました。@空気		良い	満足。@見学ができたります@静かな通りです。@お茶の作りにも驚きました日ラン
をしますが、行く回数ともあります。@平日にここにきて来ました。お気も		良い	風が吹いて気持ちいい日、お散歩しながら風情の空気をいっぱい吸ってから、ポストがあるお
くだきました。また機会がありましたら秋のにも行きたいと思えます@雰囲気がとても		良い	たです。@平日日常を帰るの! @帰国後に息抜きがてら行って来ました。@外の雑草
穴場@お土産が、@言葉も日常で耳にする程度に耳に聞こえます。公用語が英語なも		良い	と思えます。食事は英語と違って@静かかったです。@……の……に、@英語が耳に
いました。@再訪です。@自販機で@お土産を買って帰りました。@……も		良い	感じます。@修学旅行の来たこと@あります。@……も良かったです。@建物も@庭まで@こ
@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	たです。@建物も@庭まで@こたわって@……も@庭まで、更に@庭まで@……も@……も
イギリス?の巻がフツフツと@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	です@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も
てこんな感じかな。@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	なので@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も
。ツアーに参加しました。2時から日本人の案内に@……も@……も@……も@……も		良い	たです。サービスが素晴らしいですが@……も@……も@……も@……も@……も@……も
が@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	たかもしません。@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も
候過境で、@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	たらどうぞ@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も
@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	どころです。@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も
たきもちになれるから@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	です。@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も
に@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も		良い	か@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も@……も

5.4 英語力に関する記述

以下の点は、英語村に対する認識を概観するという本研究の目的からは逸れている上、当該の英語村に直接関係することではなく、日本の英語教育や英語学習全般にかかわる議論になるが、とりあげたい。

上で「英語」という用語に関して、「英語使用・対応」「英語学習」「英語力・英語能力」についてのコメントが多いことについて触れたが、オンラインレビューデータで頻繁に使用される用語を中心に、異なる視点から何度もテキストデータを読みこむうちに、ある特徴に気づいた。レビューの書き手自身の英語（力）に対する肯定的な記述はない（または、レビューの内容からは不明）のに対して、否定的な評価を窺わせる内容の記述が見られた。たとえば、次のような記述である。すべて、データの一部をそのまま抜き出した表現であり、前後を省略している。

1. 英語しか話してはいけないというルールに心配があったけど
2. 英語を使う機会などめったにない為、少々気後れしてしまい
3. 英語を馬鹿にされたらと思う恐怖心
4. 英語で【Japanese English!】と言われ、仲間の白人と共に笑われ
5. 拙いながら少しは英語で話しかけようと試みる
6. 英語で四苦八苦してたら
7. 学生の時にやった英語はもっともっと記憶の彼方でしたが
8. 英語出来なくても指ハートすればどうにかになりました
9. 明らかに下手な英語でもちゃんと英会話してくれました
10. 英語ができない私でもなんとか受付できました
11. 英語でしたが、受付の方は日本語で話してくれました
12. 英語ができなくても日本語で対応してくださいます
13. 日本語でも対応してくれるので英語に自信が無くても大丈夫

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

14. 教育施設なんで、まあ、英語ですが、どうにかなります
15. 英語が公用語です。日本語を話す方もいるのであまり心配いら
ない
16. 英語力はあまり無くても大丈夫です
17. 英語での応対が難しければもちろん日本語でも対応してもらえ
る
18. 英語が話せないので楽しさ半減
19. 自分にもう少し英語のスキルがあったらもっと堂々とこの空間を
楽しめるだろうなあ
20. 英語が苦手な私より英語が話せる人ならもっと楽しめるんだろ
うなー
21. 英語が得意な方はすごく楽しいと思います
22. ここに来るたびに自分の英語の進歩のなさを実感します
23. そこは流暢な英語でかえしました。嘘です
24. 英語力が上がれば苦労はしない
25. 英語へのモチベーションやマインドなどが変わればいいが

英語使用に関する不安（例，1，2）や恐怖心（例，3）があり，実際に自分の英語に対して否定的な評価をされた経験（例，4）もある。自分の英語に自信があるわけではないが（例，5，6，7），なんとか英語使用に成功した（例，8，9）。または，日本語でのサポートなどでなんとか問題は回避できた（例，10，11，12，13，14，15，16，17）。しかし，英語ができないため，十分に楽しむことができなかった。もっと楽しむためには英語力が必要である（例，18，19，20，21）。そして，英語を流暢に使いこなしているイメージの自分とはかけはなれた自分を実感する（例，22，23）。このような英語学習者の姿が見えてこないだろうか。なぜ，自身の英語について，このような否定的な表現で記述し，なぜ英語が話せるともっ

と楽しめると思うのだろうか。どのような英語使用が理想的なのだろうか。このような点については批判的な議論が必要なので、質的な分析を行う今後の課題としたい。

6. 結論と今後の課題

日本の英語村のひとつに関するオンラインレビューの内容を分析することによって、英語村という形態の英語教育施設に対する人々の認識を調査した。オンラインレビューでは「英語」という語が最も頻繁に使われており、施設内での英語使用や、スタッフの英語での対応、英語学習、英語力や英語能力に言及したものが多かった。レビューの投稿者のほとんどは英語のプログラムに参加することを主な目的としているのではない一般利用客だと考えられるが、このような一般利用客にとっても、英語村は「英語教育施設」であるとの認識が強いようである。

また、外国（特にイギリス）の雰囲気や外国にいるような気分を楽しんだ体験や、施設内で提供されているサービスの良い点について書かれているものが多かった。外国の雰囲気や外国にいる気分の中で、英語でやりとりすることの楽しさに言及したものも多く、英語使用体験そのものも商品の一部として消費されているようである。

英語村は、研修として訪れる児童、生徒、学生以外の一般利用客にはリゾートホテルとして利用されているが、英語教育施設であるとの認識のほうが強いようである。しかし、レビューには、英語でのやりとりや英語に囲まれた環境が良く、英語を学習したい人に良いものだといったコメントがあるものの、とくに教育内容について具体的に記述したものはなかった。「英語漬け」の環境で英語のやりとりをすることが英語学習によいと捉えられているのだろうか。

本稿では口コミデータの全体像を把握することを主な目的とした。本研

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

究のデータから、(異)文化の捉え方や言語使用(とくに言語選択)に対する信条、英語学習(法)に対する意識、英語能力に関する(特に自身の)否定的な捉え方など、さらに深く議論すべき方向性が見えてきた。今後は、他の手法で集めたデータを分析、参照しながら、これらの点について、批判的に議論をしていく予定である。

今回は口コミ数が最も多かった「Googleのクチコミ」だけを取り扱ったが、他にも多くの旅行情報サイトがある。主要な旅行情報サイトを比較したり、インターネット上で収集できる口コミを統合してさらに大きなデータを分析したりすることも必要だろう。また、インターネット上の口コミには、レビューだけでなく、投稿日、投稿者の性別、評価(5段階評価:星の数で示す。星の数「1」が最低値で、「5」が最高値)、「旅行のタイプ」や「客室」「サービス」「立地」に関する評価など、様々な情報が掲載されている。これらの情報を適宜取り入れながら分析することにより、より綿密な調査や議論ができるだろう。

今回は典型的かつ歴史が他と比較して長く、比較的大規模な施設をとりあげたが、他の英語村を調査することによって、共通点や相違点も見えてくるだろう。そして、「英語村」という英語教育施設や形態の調査と深い考察から、現代の日本における英語教育や英語学習、そして異文化理解(教育)に対する認識についてより深い理解が得られ、今後の外国語教育や異文化理解教育に関する有益な示唆が得られると考える。

謝辞

研究倫理上、施設の特定ができないように匿名化する必要があり、ここで御名前を記すことはできませんが、一訪問客としての観察に対して許可をいただきました英語村施設の皆様に心から御礼を申し上げます。皆様には温かくお迎えいただいた上、ご多用の中、ご丁寧に質問にお答えいただきました。また、桃山学院

大学の新保朝子先生、齊藤倫子先生、鄭京淑先生から草稿に対して有益な助言をいただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

注

- 1) 商品やサービスのインターネット上のレビューは、従来の口コミがデジタル化したもので「e- 口コミ (e-word-of-mouth)」と呼ばれている(石橋, 2012)。デジタル化された口コミに対する用語が引用文献ごとに異なるため、本稿では「口コミ」と表記するが、すべてオンライン上の口コミを指す。また「口コミ」サイトではあるが、単に噂を広めるのではなく、体験をもとに批評をしているものも多いため、とくに「口コミ」と表記しなければいけない場合を除いて、本稿ではインターネット上での批評という意味の「オンラインレビュー」または「レビュー」を使用する。
- 2) <https://englishvillage.co.jp/> (2022年8月16日閲覧)
- 3) <https://www.kitakyushu-global-gateway.com/> (2022年8月16日閲覧)
- 4) オンラインレビューの投稿の際に、旅行のタイプ(「出張」「パッケージ」「家族旅行」「友だち」「一人」「カップル」から該当するものをすべて選択する)、部屋、サービス、立地に関するスコア(☆が5つあり、クリックする)の入力が求められる、それが本文中に表示される。
- 5) この点が、質的データの量的分析法の弱点かもしれない。テキストの解釈から概念を捉えようとする質的分析段階では、英語で書かれたレビューも取り入れることができるだろう。
- 6) MeCabのダウンロード先は、<http://taku910.github.io/mecab/> (閲覧日2022年7月18日)である。KH Coderのダウンロードは <http://khcoder.net/> (閲覧日2022年7月18日)から行った。
- 7) 削除した部分の文字数に合わせて「---」部の長さを変えている。
- 8) 出力された結果は色分けされており、語のグループが識別できるが、本稿ではグループを四角で囲むことによって各クラスターを示す。
- 9) 日本の英語村の一施設を訪問し、フィールドワークを行った。2022年3月の平日5日間、6月の週末2日間である。提供されているサービスをスケジュールが許す限り一般客として利用し、「英語村では何が行われているの

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

か」を観察することを目的とした参与観察を行った。当該施設には、一般利用客として訪問するが、研究者として自分自身の体験をデータとする可能性があることをメールと電話で伝えた。そして、当該施設から「商用目的でなければ自由に使用してよい」との許可を得ている。体系的な聞き取り調査は行わなかったが、機会を見つけて、スタッフの方々から話を伺った。インタビューではなく、立ち話のような形で聞くことが多く、会話の直後や訪問後に話された内容を記録した。会話中にメモをとることはなく、会話直後に別の場所でキーワードだけを記録したり、文(章)を書いたりした。この簡易フィールドノートを、施設から宿泊先に戻った当日やフィールドワークから帰ってきた後に、記憶とその他のデータ(書類、写真、映像など)を頼りに詳細な内容を含めた文(章)にし完成させた。

- 10) 当該施設の職員の方は「英語を自由に使えない、その不便さも楽しんでもらいたい」と仰っていた。

引用文献

日本語文献

- 石橋太郎 (2012) 「e- 口コミのテキスト・マイニング分析に向けて (その1) : 伊豆地域におけるホテル・旅館を対象として」『静岡大学経済研究』17 (2), 1-11.
- いとうたけひこ (2013) 「テキストマイニングの看護研究における活用」『看護研究』46 (5), 475-484.
- 大久保立樹・室町泰徳 (2014) 「旅行ガイドブックと口コミの言語解析による訪日外国人の観光地イメージに関する研究」『公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集』49 (3), 573-578.
- 大場智美 (2020) 「日本の英語村実態調査」『紀要』12, 89-108.
- カレイラ松崎順子 (2013) 「『ソウル英語村ブナブキャンプ』のプログラム評価」『アジア太平洋研究』38, 79-94. doi/10.15018/00001092
- カレイラ松崎順子 (2019) 「ロンドンの和食店の TripAdvisor レビュー分析」『東洋経済大学 人文自然科学論集』第144号, 29-49.
- 北爪佐知子編 (2010) 『近畿大学英語村村長の告白』開文社出版.

- 久保田貴文 (2016) 「旅行情報サイトにおけるホテル口コミデータのテキストマイニング」『経営・情報研究 多摩大学研究紀要』20, 149-156.
- 黒岩裕 (2020) 「『山村留学+英語教育』の試み—群馬県くらぶち英語村の事例」『青山学院大学コミュニティ活動研究所報』創刊号, 7-13.
- 澁谷鎮明・舛山誠一・伊藤裕子・中野智章・財部香枝 (2014) 「韓国英語村調査報告—日本からの語学研修・フィールドワークの可能性—」『中部大学教育研究』No. 14, 81-86.
- 末吉美貴 (2019) 『テキストマイニング入門—Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社.
- 中村洋 (2014) 「韓国英語村の現状と課題の考察」*HELES Journal*, 13, 31-40.
- 西川令子 (2018) 「地域における子どもの外国語活動—堺市南区御池台校区の取り組みを事例として」『ボランティア学研究』18, 131-138.
- 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版.
- 山下航 (2021) 「北九州市スペースワールド跡地に『英語村』 海外の生活や会話を体験」『西日本新聞 me』2021年7月22日 <https://www.nishinippon.co.jp/item/n/774104/> (2022年8月16日閲覧)
- 渡邊葉子 (2016) 「REAL (英語技能特別実践ルーム) の活動報告と今後の課題」『英語英文学研究』(22), 53-62.

外国語文献

- Bourke, G. (2018). Tokyo gobal gateway opens. *Journal of Foreign Language Education*, Vol. 15, 47-57.
- Bramley, D. (2009). The English speaking lounge at Osaka Jogakuin College. 『大阪女学院大学紀要』5号, 173-180.
- Higuchi, K. (2016). *KH Coder 3 reference manual*. Kyoto (Japan): Ritsumeikan University.

「英語村」に対するインターネット上の口コミ分析

資料

資料1 データから削除した語の属性と語数

名詞	7語 (使用頻度はそれぞれ15回, 11回, 10回, 8回, 4回, 3回, 2回)
固有名詞	4語 (使用頻度はそれぞれ6回, 2回, 1回, 1回)
組織名	3語 (使用頻度はそれぞれ2回, 1回, 1回)
地名	6語 (使用頻度はそれぞれ14回, 7回, 7回, 2回, 2回, 1回)
未知語	8語 (使用頻度はそれぞれ18回, 2回, 2回, 2回, 1回, 1回, 1回, 1回)
タグ	1語 (使用頻度は20回)
名詞C	2語 (使用頻度はそれぞれ21回, 6回)

資料2 「イギリス」「英国」コロケーション統計 (前後5語以内で使われている語の頻度) 上位40語

イギリス		英国	
1	ない 否定助動詞	1	ない 否定助動詞
2	本当に 副詞	2	文化 名詞
3	雰囲気 名詞	3	気分 名詞
4	文化 名詞	4	建物 名詞
5	気分 名詞	5	体験 サ変名詞
6	中世 名詞	6	中世 名詞
7	行く 動詞	7	行く 動詞
8	建物 名詞	8	料理 サ変名詞
9	貴族 名詞	9	場所 名詞
10	好き 形容動詞	10	来る 動詞
11	来る 動詞	11	日本 地名
12	施設 サ変名詞	12	パスポート 名詞
13	体験 サ変名詞	13	スタッフ 名詞
14	味わえる 動詞	14	行う 動詞
15	街 名詞C	15	イギリス 地名
16	輸入 サ変名詞	16	美味しい 形容詞
17	感じる 動詞	17	雰囲気 名詞
18	最高 名詞	18	本格 名詞
19	居る 動詞	19	味わえる 動詞
20	英語 名詞	20	英国 地名

人間文化研究 第18号

21	英国	地名	21	プチ	未知語
22	旅行	サ変名詞	22	貴族	名詞
23	すべて	副詞可能	23	空間	名詞
24	一度	副詞	24	好き	形容動詞
25	疑似	名詞	25	若者	名詞
26	古い	形容詞	26	情緒	名詞
27	国旗	名詞	27	大使館	名詞
28	仕様	名詞	28	田舎	名詞
29	小物	名詞	29	土産	名詞
30	紳士	名詞	30	風情	名詞
31	是非	サ変名詞	31	並ぶ	動詞
32	日本	地名	32	本当に	副詞
33	楽しめる	動詞	33	要る	動詞
34	出来る	動詞	34	旅	サ変名詞
35	場所	名詞	35	ディズニーランド	固有名詞
36	触れ込み	名詞	36	アフタヌーンティー	タグ
37	分かる	動詞	37	ランチ	名詞
38	入る	動詞	38	広い	形容詞
39	思う	動詞	39	敷地	名詞
40	宿泊	サ変名詞	40	思う	動詞

An Analysis of Online Reviews Regarding *Eigo Mura* (English Villages) Using Text Data Mining Techniques

TSURII Chie

This study overviews how and in what terms people talk about their experiences at a new type of English language educational institution in Japan, *eigo mura* (English village). User-generated online reviews about an English village were quantitatively analysed using text mining techniques that employed KH Coder software. The reviews were retrieved from the Google review page and comprised 804 comments consisting of 27,487 characters (excluding spaces). I analysed high-frequency words and co-occurrence networks, which showed the relationship between a specific word and others used in the data, and performed a hierarchical cluster analysis that identified the combinations or groups of words with similar appearance patterns, following Higuchi's (2016) methodology. Although the English village functions as an English language educational institution and a resort hotel, the results showed that people strongly perceive it as an English education institution. Additionally, they believe in the efficacy of being immersed in British culture and situations that require the use of English in order to learn the language.

This study is part of a larger multifaceted ethnographic research in the context of the English village to explore the ideological nature of the English language, including how it is learnt or taught, in contemporary Japanese society. Text mining can be applied for exploratory research and this study is part of a triangulation in a qualitative exploratory research, providing an overview on people's perceptions of English

villages, as a preliminary project for further research. The investigation suggested additional topics that can be examined to gain a deeper understanding of how the English language and the learning/teaching of it are perceived, as well as the reasons behind people's negative feelings about their own English language skills. Then, these insights can be extrapolated to the study of how other cultures, foreign language education and (education of) intercultural communication are represented and perceived. In the same manner, beliefs on language use and language choice can be explored.

Keywords: text mining, *eigo mura* (English villages), online reviews, English language education, intercultural education